



広島市生活支援体制整備事業広報紙 第1号（令和2（2020）年5月発行）



ひろしまええとこ通信

第1号の題字は安芸区「矢野の家」の辰巳珠美さんに書いていただきました！



「ひろしまええとこ通信」は、みなさんの地域における様々な地域活動の好事例＝『ええとこ』を広くご紹介します。

今回は、現在 新型コロナウイルス感染症対策で多くの地域の通りの場活動が難しくなっている中で、この状況にも負けない工夫をして、地域の人と人とのつながりを維持している取組をご紹介します。

往復はがきの「えがお便」

～はがきで届ける“ぬくもり”と“つながり”～

安佐北区白木町

井原地区社会福祉協議会



井原地区社協では、お一人暮らしの高齢者20名の方へ、毎月往復はがきをお届けし、返信はがきで体調や心配事などの近況を伝えもらう「えがお便」による見守りの取り組みを平成26年2月から続けられています。

井原地区社協の沼崎洋三会長は「お届けするはがきには、詐欺などの注意の呼びかけ等、役員や社協関係者からの便りの他に、小学校の夏休み等には、こどもたちが書いた季節感あふれる絵手紙をお届けしています。みなさんからとても好評です」「高南郵便局も取り組みにご理解いただき、お便りを届けてくださっています。また返信はがきは、毎月、地区社協役員、民生委員、福祉委員、白木地域包括支援センターと一緒に、取りまとめや書かれている心配事などの情報を共有して、見守り活動の連携を進めています」と話してくださいました。



井原地区社協役員のみなさん

令和2年5月からは、井原郵便局のオリジナル風景印（消印）を押した“えがお便”的お届けが始まります。



井原郵便局
横野郵便局長



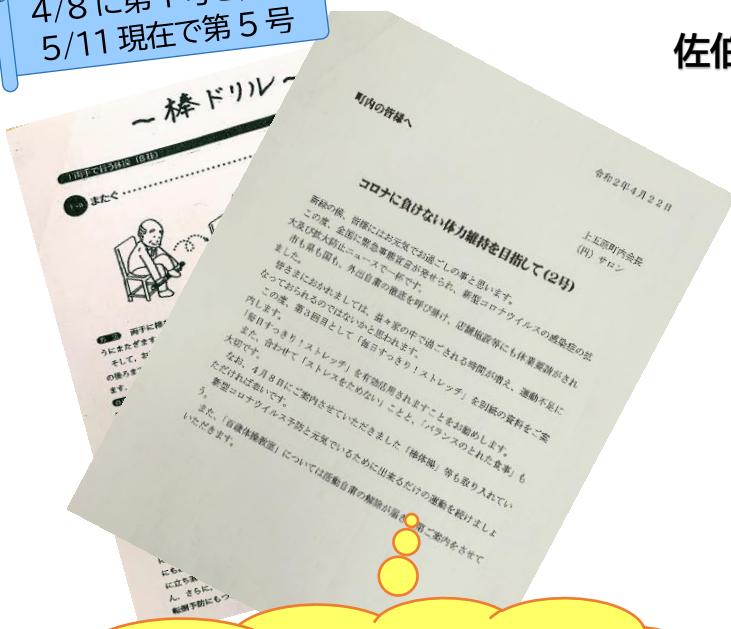
井原郵便局オリジナル風景印

新型コロナウイルス感染予防で外出・活動自粛が続く現状ですが、直接会いに行けなくても思いを届けられるこの取り組みに、地域の共感と温かなつながりが広がっています。

今だからできるサロンの取組み

～体操プリント全戸配布でコロナに打ち勝つ～

4/8に第1号を配布
5/11現在で第5号



町内会の全面協力により、サロン参加者だけでなく、組長さんを通して町内会全戸配布。サロンに参加したことのない人からも問合せがありました！

かみいはら まどか
佐伯区湯来町上五原町内会 (円)サロン

(円)サロンでは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためのサロン活動自粛期間中に、自宅でできる体操プリントを上五原町内会全戸に配布されています。

代表の吉本和子さんは、「上五原町内会は、高齢者が多い地域。自宅に閉じこもることで、運動不足になったり、認知症になったりする可能性があると聞きます。サロン活動を自粛している間も、運動を継続し、病気を予防できるようにしたいという思いでこの取組みを始めました」と教えてくださいました。

体操プリントは、毎号内容を変え、棒体操、ストレッチ、指体操、口体操など、今までサロン活動の中で実施したことのある体操の中から選び、編集・作成しているそうです。

新型コロナに負けず、自宅でも楽しんで体操し、地域の人が元気に過ごせるように、また元気にサロンで会えるようにと願いながら取組んでおられます。

みんなの想いをつなげ ～手作りマスクでつながる想いと想い～

現在、広島市社会福祉協議会ボランティア情報センターでは、自宅でできるボランティアのひとつとして、手作りマスクを募集しています。現在のマスク不足に少しでも対応しつつ、一人一人の想いがつながり、少しでもほっこりした優しい気持ちで日々を過ごしていただけたらと思い、いろいろな団体の方々にご協力をいただいています。



多くの想いが集まっています！

作成いただいたマスクは、市内の高齢者、障害者等、必要な団体や個人等へ配布しており、マスク不足の不安解消とともに、たくさんの支え合いの想いがつながっています。



市立広島特別支援学校さんへ寄付
感謝の言葉をいただきました

<各地で実践されている『ええとこ』をお寄せください！>

「ひろしまええとこ通信」は地域の好事例（ええとこ）を今後、広くご紹介していきます。

「うちの地域でこんな活動しとるよ！」「気になる人と工夫してつながるようにしとるよ！」
そういった地域活動に関する耳寄りな情報を教えていただき、定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指します。

耳寄り情報は、市・区社協にいる生活支援コーディネーターへご連絡ください！

